

モバハ道

極めろ

やあ!

ノートPCで

いつでもオフィスを

実現する

第4回
テーマ

モバイルで活用できる
FAXサービス

モバイルといっても、携帯電話と電子メールがすべてではない。業種や相手によっては電子メールよりFAXが必要な場合がある。今回は携帯電話やPHSなどでも使える、モバイルシーンに役立つFAXサービスをお教えしよう。

Illust: Karasawa Nawoki

【ビジネスシーンでは携帯電話だけでなくFAXの送受信も必要だ】

モバイルコンピューティングの基本セットといえば、ノートPCに携帯電話・PHS、電子メール。これでノートPCに仕事用のアプリケーションとデータを入れておけば、どこでも仕事ができるし連絡も取れるので、まず困ることはない。しかし、場合によってはFAXの送受信の必要に迫られることがある。ビジネスの相手が電子メールを使っていないときはもちろんだが、テキストファイルやエクセルなどの表計算ファイル以外の手書きの地図や送ったFAXをチェックして返送してもらうときには、先方はFAXを使うことになる。当然、こちらもFAXを受信できなければならないわけだ。

ノートPCに市販のFAXソフトを入れておけば、FAXの送信は簡単にできる。しかし受信となると、PHSのPIAFSではFAXが受信はできないし(みなし通信ならできないこともないが.....)、携帯電話でもFAX来ることがわかっていなければ受けられない。また、通信エリアも限られる。それに携帯電話の電源は入れっ

ばなしにしても、ノートPCとケーブルでつながればなしという人はいないだろう。

そこで、時と場所を選ばずにFAXを受信できるサービスと、インターネットを使ったFAX送信サービスをお教えしよう。

【FAXをファイルに変換して電子メール添付で届けてくれるF@xEmail】

モバイルでの便利なFAX受信サービスの1つ目は、技研商事インターナショナルの「F@xEmail」。このサービスでは、指定の電話番号(FAX番号)あてに送られて来たFAXを、まずTIFF形式の画像ファイルに変換する。そして、それを電子メールの添付ファイルとして自分の電子メールアドレス宛てに送ってくれるのだ。それを見るには、TIFFに対応したビューアーを使えばいい。

F@xEmailを申し込むと、専用のFAX番号を与えられる。個人ユーザーの契約の場合、契約料金が3000円で月額の基本料金が3000円。これにFAX1枚あたり25円(1000枚/月まで)の配信料がかかる。1000枚以上は1枚あたりの配信料金が安くなる。個人ユーザーではさ



「F@xEm@il」の技研商事インターナショナルのホームページではサンプルのFAXイメージを見ることができる。



ワンナンサービス(株)のホームページには、サービスパッケージに含まれる各サービスの詳しい内容が載っている。

F@xEmail

	個人会員	法人会員
契約料	3000円	2000円(10人まで) 2000円(追加1人ごと)
月額基本料	3000円	2500円(1人につき)
利用料	25円/枚(1000枚まで) 23円/枚(~2000枚) 21円/枚(2001枚以上)	25円/枚(5000枚まで) 23円/枚(~10000枚) 21円/枚(~50000枚)

すがにそれほどたくさんのFAXを受信することはないと思われるが、為替や株取引などの仕事をしている人は必要になるかもしれない。

法人会員の場合は契約料金2000円（10人まで）で追加の契約は2000円/人。月額基本料金は2500円/人。配信料金は5000枚まで25円で、それ以上は割引されていく。

このサービスの利点は、もちろん電子メールが使えるところなら世界のどこにいてもFAXを受信できることだが、それだけではない。法人契約の場合、社員1人1人がFAX番号を持っているのと同じだから、担当者に直接FAXが届く。外回りでオフィスを留守がちすることが多い営業職のスタッフにもFAXを渡し忘れたり、外出先から直帰で返答が遅くなるということもなくなるのだ。また、受信したFAXの案件を何人かのスタッフで検討したいときには、そのまま電子メールの同報機能で送信すればいい。

受信FAXをセンターに蓄えてくれるワンナンバーサービス

モバイル向きFAX受信のもう1つのサービスは、「ワンナンバーサービス」。その名のとおりワンナンバーサービス（株）が提供している。このサービスの基本サービスは、契約ユーザーが現在使用している電話番号にかかってきた電話やFAXを指定の電話番号の通信機器（携帯電話やPHS）に転送するというもの。しかしこれはサービスの1つで、ほかにもいろいろなサービスが用意されている（詳細は表を参照）。その中の1つに、FAXメール機能がある。

ただし「FAXメール機能」といっても電子メールとは関係ない。このサービスは、指定の電話番号にかかってきたFAXのデータをワ

ンナンバーサービスのセンターが蓄積してくれて、ユーザーは好きなときにFAX機で取り出せるというもの。いわばセンター管理の留守番FAXとでもいうサービスだ。前記のF@xEmailと違って電子メールを使っていないため、いつでもどこでもFAXを受けられるというものではないが、伝言やFAXが入ったことだけはポケベル通知機能で知ることができる。個人事業主や営業が多いISOHOには、他のサービスと併せて契約すると便利だろう。

上の表のように、ワンナンバーサービスには4つのサービスパックがある。自分に必要なサービスを見極めて選んでほしい。もし必要なら、受け付け案内やスケジュール管理など、個人秘書的なサービスを受けることもできる。新規加入料はどのパックでも同じ1000円で、FAXメール機能を含むパックBのサービスは、転送やFAX受信の件数にかかわらず月額3800円となっている。

ワンナンバーサービス

サービス名	機能・内容	パックR	パックB	パックB	パックB
個人着信機能	かかってきた電話を指定の通信媒体に転送	3000円/月	3800円/月	3800円/月	10500円/月
リモート設定機能	プッシュ式電話から転送設定の変更を行う				
伝言センター機能	着信した電話の録音・再生（留守番電話）				
クイックコールバック機能	伝言を聞いたあと、短縮番号でコールバック				
ポケベル通知機能	伝言やFAXが入ったことをポケットベルに通知				
国際接続機能	転送先を海外に設定可能 1				
取り次ぎ機能	発信者が連絡先と連絡方法を選択				
FAX自動転送機能	かかってきたFAXを指定の番号へ転送				
FAXメール機能	ワンナンバーセンターでFAXを蓄積し、必要時に取り出せる				
週間スケジュール機能	毎日のスケジュールを記録して時刻で転送先やお自動設定する				
ポケベルコネクション機能	ワンナンバーセンターが相手先を保留してポケットベルを呼び出す				
暗証番号着信機能	暗証番号が入力された相手だけ転送し、それ以外は伝言センターに転送する				
受付案内機能	かかってきた電話を指定の通信媒体に転送受け付け、接続先を音声で案内する				

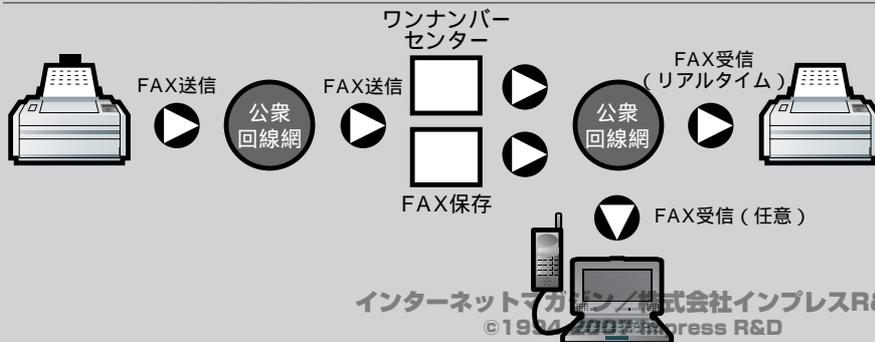
1：月額使用料がクレジットカード払いの契約者に限る 問い合わせ：0120-548178

URL <http://www.sphere.ad.jp/ons/>

F@xEm@ilの仕組み



ワンナンバーサービスの仕組み



電子メールを FAX機に送れる メールDEファックス

FAXの受信ができるようになったら、次は送信だ。一番簡単な方法は、冒頭にも書いたように市販のFAXソフトを使うことだ。だが、それ以上に便利なサービスがある。

インターネットプロバイダーのKCOMが提供する「KCOM メールDEファックス」は、電子メールを出すとそれを先方のFAX機にFAXデータとして届けてくれるサービスだ。使い方（送信方法）も簡単で、電子メールソフトで作成したメールの「送信先（To）」欄に先方の「電話番号@fax.kcom.ne.jp（このサービスのサーバーのドメイン名）」を指定するだけでいい。「メールDEファックス」専用のソフトや設定は不要だ。

このサービスが市販のFAXソフトより優れ

ているのは、FAX送信にインターネット（電子メール）を使っている点だ。インターネットを使うことで、遠距離、たとえば海外へのFAX送信がぐんとながかりになる。

また、同報FAX送信の場合、市販のFAXソフトは10通なら10回電話をかけるため、1通に3分とすると30分も電話を占有してしまう。モバイルの場合はこれが困る。送信している間中、ノートPCを開いて携帯電話やPHSをつなぎっぱなしにしなければならないのだ。これでは移動もままならない。その点、「メールDEファックス」なら電子メールだから、1通送ればあとはサーバーがさばってくれる。普通の同報メールと同じ時間しかノートPCと電話機を占有せず済む。

このサービスの契約料は無料。月額基本料は1000円だが、すでにKCOMの加入者は無料で、利用料だけ支払えばいいのは魅力的。また利用料はどの国に送信する場合も70Kバイト単位だ。

専用アクセスポイントに 接続不要の NeTrueFax

最後に紹介するサービスは、専用クライアントソフトを使う、ネットウルー・コミュニケーションズ・ジャパンのFAX送信サービス「NeTrueFax」。もちろん、これもインターネットを利用したFAXサービスだ。

通常のインターネットFAXは、最初に専用のアクセスポイントの電話番号を入力し、その後にIDナンバーとパスワード（番号）、そしてさらに送信先のFAX番号を入力、というような面倒くさい手順が、1件ごとに必要だ。しかし、「NeTrueFax」ではインターネットのプロバイダーに接続することにより、専用アクセスポイントの電話番号の入力を省略した。

実際にFAXを送信するには、文書を作成し

KCOMメールDEファックス

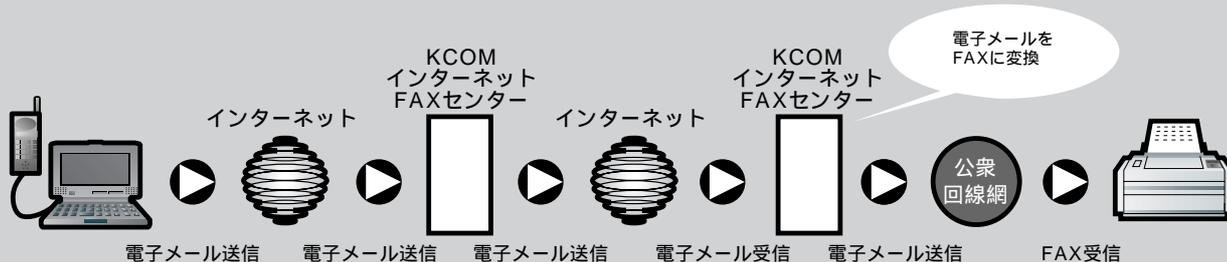
	KCOM加入者	KCOM未加入者
契約料	無料	無料
月額基本料	無料	1000円
利用料 (70Kバイトごと)	30円(日本) 50円(アメリカ・カナダ) 80円(イギリス) 90円(フランス・ドイツ・オーストラリア)	

他地域にも送信可能。料金はホームページ参照
問い合わせ：03-3345-3445
URL <http://w3.kcom.ne.jp/menu/f@fax.html>

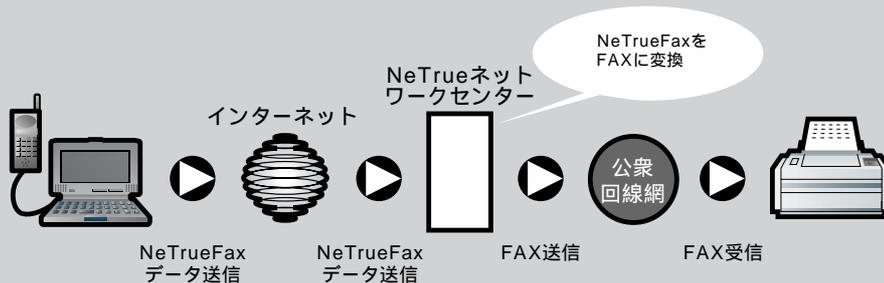


KCOMのホームページでは、ウェブ上から「メールDEファックス」の体験FAX送信ができる（無料）。

メールDEファックスの仕組み



NeTrueFaxの仕組み



ネットウルー・コミュニケーションズ・ジャパンのホームページには、「NeTrueFax」以外のサービスも紹介されている。





たアプリケーションから「印刷」を選ぶ。そのときにプリンターではなく先にインストールしておいた「NeTrueFax」のクライアントソフトを選択する。するとFAX送信先電話番号を入力する画面が現れるので入力するのだ。このあたりの流れは他のFAXソフトと変わらない。契約ユーザーIDとパスワードは、クライアントソフトに設定しておけばいい。もちろん、同報送信もできる。

「NeTrueFax」のクライアントソフトは7800円だが、契約料は無料で月額基本料は280円と安価。またその月にサービスを利用しなければ基本料もかからない。利用料金は送信先によって異なるが、たとえばアメリカの場合、NeTrueFaxのセンターへの接続時間1分単位で39円～41円程度。ただしダイ

アルアップの場合、利用料とは別にプロバイダーへの接続のための電話料金と課金が必要だ。「NeTrueFaxのセンターへの接続時間」というのがわかりづらいかもしれないが、送信開始時にプロバイダーに接続し、終了と同時にその接続を切断するまでの時間と考えればわかってもらえるだろう。

このサービスも、インターネットを使ってるので、前述の「メールDEファックス」と同じく料金以外に電話機の占有時間の短縮というメリットがある。

モバイルで便利（というか必須）の携帯電話・PHSだが、FAXについてはやはり弱い。これらのサービスを検討して、その弱点をカバーし、ビジネスに役立ててほしい。

NeTrueFax

契約料	無料	NeTrueFaxSoft
月額基本料	280円	7800円

サービスを使用しなかった月は月額基本料はかからない

利用料金 (NeTrue ネットワークセンターへの接続1分間ごと)

送信先国名	料金 (1分間)
アメリカ	41円
イギリス	45円
フランス	65円
ドイツ	65円
オーストラリア	65円

他地域にも送信可能。料金は5月19日現在
携帯電話、PHSへ配信する場合は、1分60円別途通信料が必要
ダイヤルアップの場合、別途各プロバイダーへの接続料が必要
問い合わせ：093-435-0337
URL <http://www.nettrue.ne.jp/>

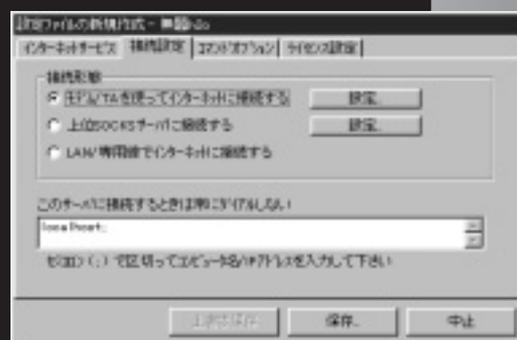


「HtoO」でインターネット環境を一発切り替え!

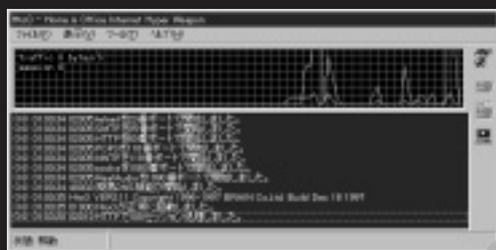
オフィスでは社内LANに接続、モバイルでは会社のLANとプロバイダーを併用というときに面倒なのが、インターネット環境（プロキシやメールサーバー）の設定の切り替え。こんなときこそプレーンの「HtoO」だ。このソフトはPC内に仮想的にプロキシサーバーやメールサーバーなどを設定する。この設定はインターネットへの接続ごとに作成する（たとえばプロバイダーAの設定を「A」、社内LANの設定を

「LAN」とする）。そのうえで、すべてのインターネットアプリケーションはそこを参照するように設定するのだ。

そして社内でインターネットに接続するときには「HtoO」のメニューで「LAN」をクリックすれば、メールサーバーからプロキシまで、一発で切り替えることができる。「HtoO」の価格は1ユーザー版は22,200円、5ユーザー版は99,800円だ。



LANやダイヤルアップごとに各種設定を保存して、それを切り替える。



「HtoO」のコンソール画面。このファイルメニューで設定を切り替えられる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp